



お知らせ

News



AP事業成果報告会を開催しました

2020年03月09日

2月21日（金）に、AP事業成果報告会～生涯にわたって自ら学び続ける人材の育成をめざして～を開催しました。

本報告会は、平成26年度に大学教育再生加速プログラム（AP） テーマⅠ「アクティブ・ラーニング」・テーマⅡ「学修成果の可視化」複合型に選定されてから最終年度にあたる本年まで5年半にわたって進めてきた、「比治山型アクティブ・ラーニング」の実践、学生情報システム「Hi!way」による学修成果の可視化、「比治山型ディプロマ・サプリメント」の構築など、これまでの取組と成果を総括することを目的としました。当日は、本学の教職員や広島県内外の大学・短大・企業から、教育関係者 108名が参加しました。

はじめに、テーマⅠ「アクティブ・ラーニング」について、本学が推進してきた「比治山型アクティブ・ラーニング」*1や、汎用的能力「4×3の比治山力」*2など、これまで全学的に波及させるために実行してきたことを報告しました。そして、授業を通して取り組んだ事柄や受講した感想、自身の成長実感について学生の視点から2件、「比治山型アクティブ・ラーニング」実践のために考案した技法について教員の視点から1件、事例を紹介しました。次に、テーマⅡ「学修成果の可視化」について、AP事業推進の結果を各種指標により効果測定・検証したところ、学生自身が身についたと実感する「4×3の比治山力」や学修意欲が徐々に伸びたとともに、「4×3の比治山力」の各スキルにおいて学生自身の修得実感を自己評価したものと、企業等の人事採用者が新規採用者に求めるレベル並びに本学の卒業生が入社時に身につけているレベルを評価したものとをそれぞれに平均して比較すると類似した形となったことを報告しました。併せて、本学学生情報システムを基盤とした学修活動のPDCAサイクルや独自開発した「比治山型ディプロマ・サプリメント」を紹介し、AP事業の成果を踏まえた内部質保証の取組やAP事業の成果を継承・発展させることを含めて本学の既存の組織を統合した「高等教育研究開発センター」の構想について説明しました。

パネルディスカッションでは、本学APワーキンググループのメンバーがコーディネーターを務め、事例報告をした学生たち自身が今成長を実感していることや課題だと感じていること、今後伸ばしていきたい力といったことを座談会形式で発表することで、学生の本音をお届けしました。最後に、総括として、AP事業申請の経緯から、学生に「自分は何を学び、何を身につけ、どのような力を持つのか」という自身の強みを意識化させ、自己理解・肯定感を高めて社会に接続させるために本学が進めてきた取組を振り返るとともに、今後もAP事業で蓄積したアクティブ・ラーニングや内部質保証方針に沿った点検・評価を継続していくことや、高大接続・入試改革にも「4×3の比治山力」や「学修成果の可視化」を取り入れたシステムを構築することを発表しました。

また、報告会会場以外にも、これまでのAP事業の取組を説明した資料や、報告会で事例紹介したものを含む学内における先進的なアクティブ・ラーニングの取組に関するポスターを展示しました。受付時間と休憩時間には、それぞれのポスター作成者が希望者に説明し、質疑応答や意見交換が繰り広げられて、生涯にわたって自ら学び続ける人材の育成をめざした取組の成果を感じていただける場となったのではないのでしょうか。



参加者アンケートでは、「学生の生の声や先生方の努力を報告という形で共有することができて有意義に感じました。」「今回のご報告を聞いて、比治山らしさ、これからもこの方向で行けばよいと思いました。」「能動的学習を積極的に行えるようになり、教員・学生とも成長できたように思います。高大連携も積極的に進めていただきたいと思います。」「などのご意見やご感想がありました。

ご参加いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

*1：一方的な知識伝授型授業ではなく、学生の学ぶ意欲を引き出すため、体験や参加によって学生が主体的に考えるきっかけをつくる授業展開であ

り、学生自身による主体的・能動的で対話的な学修を通して「深い学び（ディープ・ラーニング）」へ導くもの
*2：建学の精神「悠久不滅の生命の理想に向かって精進する」から導き出された4つのキーコンピテンシー（自立・想像・共生・創造）と、各キーコンピテンシーを3つのスキルに編成・具現化した、本学において全学的に育成する汎用的能力

[【大学教育再生加速プログラム \(AP\)】](#)

(= AP)

もどる

比治山大学・比治山大学短期大学部 〒732-8509 広島市東区牛田新町4丁目1-1

[サイトポリシー](#) | [個人情報保護方針](#) | [サイトマップ](#)

Copyright © HIJYAMA UNIVERSITY. All rights reserved.